

英字新聞の読み方 基礎編その2

P a r t 2

では例文を斜線で区切ってみます。

例文 1

Lay judges face first demand for death

(裁判員は初の死刑求刑に向き合う)

Prosecutors / on Monday / **demanded** / **capital punishment** / for the first time in a lay judge trial / as they pursued / the case of a 42-year-old man / charged with / murdering two women in Tokyo last year.

(カンドころ) 上の例では見出し文とリード文の主語は違います。文頭の太字「prosecutors」が主語で次の「on Monday」は挿入された枝部です。肝心なのは次にある太字の動詞「demanded」で、その目的語の太字「capital punishment」が次にあります。on Monday の挿入部を除くと、主語＋述語＋目的語と幹の部分が浮き出てきます。ここまですべて文章は完結しています。しかし内容説明をさらに加えているのが後に続く部分で枝葉です。as からは背景説明文です。訳すときは日本語として少しぎこちないのですが、言葉を補いながら前から順に訳していきます。そのほうが混乱せずに全体を理解できるからです。

(語い) prosecutors: 検察官、demanded: 要求した、capital punishment: 死刑、lay judge trial: 裁判員裁判、pursued: 捜査をした、the case: 事件、charged with: ~の容疑で起訴された、murdering: 殺人

(区切りで順に訳すと) 検察は／月曜日／求刑した／死刑を。(それは) 裁判員裁判で初めてで／検察は捜査をしたとき／42 歳の男の事件を／(その男は) 容疑で起訴された／昨年東京で2人の女性を殺した。

この例文の肝心な部分は、「検察官が、裁判員裁判で初めて死刑を求刑した」です。